

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	長田 里恵	学校名	私立文化学園長野中学 ・高等学校
担当教科等	英語（中学・高校）	対象学年（人数）	中学3年・2年 計32名
実践年月日もしくは期間（時数）	令和元年8月 ～ 令和2年2月（6時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：	特別活動・生徒会		
2. 単元名：	『国際キャンペーン』地球規模(パラグアイ)で考え、足元(文中生徒会)から行動する		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標	<p>授業テーマ：NAGANO SDGs PROJECT「みんなのSDGs宣言」に参加して長野をそして世界を変えていこう。</p> <p>単元目標：グローバル化で経済が複雑に絡み合い、イノベーションが絶えず生まれている予測不可能なVUCA（不確実で曖昧、動的で複雑）な時代を、協働して生き抜く力をつけるため、文化学園長野中學生徒会として「持続可能な世界を築くにはどのようなことを行えばよいのか」について、日本とその反対に位置するパラグアイの「課題」を考える。そして異年齢で組織される委員会の仲間と協働して、長野からできることを考え行動、活動を起こし、その結果をNAGANO SDGs PROJECTを利用して全県に発信する。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標：中学校学習指導要領「特別活動」 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることを理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>		
4. 単元の評価規 準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や資料を見て、SDGsと結び付けながらパラグアイの現状を理解する。 ・パラグアイのインタビュー結果や新聞記事を読み取り、日本の現状と比較する中で、SDGs達成への課題を立てることができる。 	
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・先進国日本は豊かで幸せだが、中進国になったばかりのパラグアイには課題が多いと考えていた生徒が、「社会課題解決中MAP」の資料を読み取る中で、内省・熟慮し、批判的思考を持つことができる。 ・知識構成型ジグソー法を用いることで、自分の言葉で考えを伝え、仲間と協働してそれぞれの知識を組み合わせ、発表することができる。 	
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・学び得たことから、課題を自分に引き寄せて、自分たちの委員会ですること考え実行することができる。 	

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】 本校は、本年度ユネスコスクール 3 年目を迎えた。生徒は素直で受動的に知ろうとするものの、「自分で問いを立てる」ことが苦手である。そして、差別やいじめが犯罪になったり、犯罪が差別やいじめを生み出したりと、安定した社会が「持続不可能」になる因果関係を掴みにくいと感じている。また、他人が立てた問いに答えるという「他人事」に従っているだけでは「主体的」な学びになりにくいと考える。「自分事」として関わり、つながりを深めるために、そして「自分で問いを立てる」ためには、その分野に対する興味、そして十分な情報・知識が必要であると考えた。生徒の実態を掴んだ上で、地球規模（パラグアイ）で考え、足元（文中生徒会）から協働することで、例え失敗しても勇気を持って行動するために、本単元を設定した。</p> <p>【単元の意義】 予測不可能な VUCA（不確実で曖昧、動的で複雑）な時代を、協働して生き抜く力をつけるために、アクティブ・ラーニング「知識構成型ジグソー法」を用いることで、一つの答えを多角的に捉え、一人で導き出す方法や、仲間と協働して導き出す方法のどちらも学べるので、勉強以外の場面でも困難な状況を乗り越えられる力が身につくこと。また、断片的な考え方を自分の言葉で発表することにより、考えがまとまり易くなること。</p> <p>【児童／生徒観】 中学生徒会も 4 年目を迎えた。1 年目は各委員会が考えるテーマにそって調べ、模造紙にまとめ掲示。2 年目はテーマを「SDG s」の各ゴールに着目し、執行部中心にリーダーズ研修後サブテーマを決めて探究、模造紙にまとめ全校で発表。3 年目の振り返りの中で、1、2 年生から「SDG s ってよく分からないな。」という声上がり、3 年生からは「伝え方としては、ICT を使ってプレゼンをしたい。」という願いが上がった。単元に入る前のアンケートで、本校生徒の「パラグアイ」認知度は 38%、知っているとはいえ、「名前だけ知っている」「夏に長田先生が行った場所」程度の認識である、という実態がわかった。</p> <p>【指導観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元において、生徒の「SDG s をもっとわかりやすく」という願いから、JICA 国際協力推進員の講演を皮切りに、都度 SDG s と関連させる活動をさせる。 ・日本、その反対に位置するパラグアイの相違点と類似点に着眼し、自ら課題を立てる。 ・知識構成型ジグソー法を用いて探究したり、委員会での全校討論をしたりして、自分のこととして活動を計画する。全校討論は執行部自ら計画実行させるが、事前にファシリテーション研修をする。
--	--

6. 単元計画（全 6 時間）				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	SDGs を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識を確認させ、本単元の意義を知ることができる。 ・SDGs の講演を聞き、ゲームを通して、各目標の価値について話し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際キャンペーン」、SDG s の既習の知識を確認する。 ・English Camp 内で、中 1・中 2 を対象に、SDGs17 のゴールのカードを最も重要だと思う目標から並びかえ、グループでその理由を考え、発表する。 [中 1・中 2] 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs17 のゴールのカード ・未来を変える目標 SDG s ・JICA 長野デスク 講師：竹内岳さん

2	パラグアイの基礎知識習得	<ul style="list-style-type: none"> パラグアイの基礎知識を身に付けることができる。 DVD を視聴しカテウラ音楽団を知り、パラグアイの地方と都市の差を挙げるることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> パラグアイについてのアンケートに答える。 パワーポイントのクイズに答えながら。パラグアイについて知る。(人口、面積、自然環境、食環境、文化など) カテウラ音楽団の演奏を聞き、その後カテウラの現状を知る。 地方と都市の差を写真から見取り、委員会のメンバーで感想を伝え合う。 [全校] 	<ul style="list-style-type: none"> パワポ (海外研修素材) NHK 特集「移住」 JICA「どうなってるの？世界と日本」 海外研修素材 カテウラ音楽団 DVD
3	パラグアイの課題を考える	<ul style="list-style-type: none"> 知識構成型ジグソー法でパラグアイの3つのインタビュー結果を読み、パラグアイが抱える課題を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自で資料を読み、SDG s と結び付けてみる。(ラパス日本語学校の後藤校長、パラグアイ共和国農村地のミグドニオ サムリオさん、カテウラ音楽団アシスタントのマルセロ・カセスさん) エキスパート班でワークシートに SDG s 目標カードを貼って、自分の考えや班員の考えを共有する。 班で一番大事な課題だと思う事がらを決め、SDG s の番号とともに記入し発表する。 [中2・中3] 	<ul style="list-style-type: none"> パワポ エキスパート資料 (パラグアイでのインタビュー結果) SDG s 目標の付箋
	2019 国際キャンペーン座談会&講演会 (生徒会企画)	<ul style="list-style-type: none"> 執行部員が中心になり、計画・運営を行うことができる。 生きる上で何を大切にしているのかを考えることができる。 自分の意見と他の人の意見を調整しながら物事を決めていく過程を体験する。 価値観を共有した仲間と協働し、委員会での行動・活動に結び付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの既習の知識を持ち寄り、座談会のテーマを決め、講師を決める。 テーマ『誰一人取り残さない文中生徒会』 講師：Joshua Pacheco さん (アメリカ出身) 本常 遥己さん (現在信州大学教育学部) 内容：“Happy and Unhappy” ①アイスブレイク：全校で打ち解けよう ②4つの角：私とあなた、どんな価値観をもっているかな ③権利の舟：わたしにとって一番大切な権利は？ ④ダイヤモンドランキング：委員のメンバーで選ぶ、一番大切な権利は？ (1回の土曜講座 3時間で) [全校] 	<ul style="list-style-type: none"> パワポ ワークシート
4 本時	“Think Globally, Act Locally”	<ul style="list-style-type: none"> SDG s 達成のために生徒会として何ができるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識構成型ジグソー法で、パラグアイについて2つの新聞記事と、日本について「社会課題解決中 MAP」抽出資料を読み、エキスパートになる。 [中2・中3] 	<ul style="list-style-type: none"> 幸せプロジェクトの動画 パワポ

5	プレゼンの学習	<ul style="list-style-type: none"> ICTを使ったプレゼンを活用して伝えられるよう、リーダーとして活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンの意義を知る。 効果的なプレゼンの6要素（簡単→意外性→具体性→信頼性→感情的に→ストーリー性）を知る。 [中3] 	<ul style="list-style-type: none"> 名プレゼンター（プレゼンテーション教材）
6	総合探求発表会	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域の方々を学校にお招きし、各委員会でアクションプランの研究発表会でプレゼンテーションを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会「SDGs研究発表」を保護者、地域の方々の前でプレゼンテーションを行う。 生徒会執行部役員は、高校生徒会執行部とともに「信州ESDコンソーシアム」成果発表会へと繋げる。 [全校] 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会作成パワポ

<p>7. 本時の展開（4時間目）</p> <p>本時のねらい：日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するため、日本に暮らす文中生徒会として（自分事として）何ができるかを考える。</p>			
過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p>導入</p> <p>(5分)</p>	<p>【知識構成型ジグソー法】</p> <p>「日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するために、日本に暮らす文中生徒会として何ができるか」に対する自分の答えを、ワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒各自に取り組みせる。 	<ul style="list-style-type: none"> パワポ ワークシート ベル
<p>展開</p> <p>(15分)</p>	<p>①【エキスパート活動】</p> <p>エキスパートA、B、Cの課題に取り組む。</p> <p>エキスパートA：＜途上国から中進国へ＞</p> <p>○日本の反対側に位置するパラグアイが、途上国から中進国になったのはどうして？○パラグアイの国民性</p> <p>エキスパートB：＜廃材楽器で美しい音色＞</p> <p>○日本の反対側に位置するパラグアイ首都アスンシオンにある音楽学校はどんな学校？</p> <p>エキスパートC：＜社会課題解決中MAP＞</p> <p>○日本社会における課題は？</p> <p>○日本は本当に「豊か」で「幸せ」か？</p> <p>②【ジグソー活動】</p> <p>活動1：エキスパート活動でわかったことを伝え合う。</p> <p>活動2：最初の質問「南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中生徒会として何ができるか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各ワークシートの答えを協働して考えさせ、括弧に答えを書かせる。 わかったこと、疑問に思ったことを次のグループで伝えられるよう準備しておくように伝える。 活動が停滞した場合、声をかけて支援を行い、活発な議論を促す。 前時の資料[大切な権利]表も参考に促す。 発表は前に出て発表させ、聞き手には傾聴姿勢を心がけさせる。 授業前に比べて自分がどれだけ理解が深まったかを感じるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> エキスパートA 新聞記事 エキスパートB 新聞記事 エキスパートC 社会課題解決中MAP ワークシート ワークシート 各委員が選んだ大切な権利シート ワークシート
<p>(20分)</p> <p>(5分)</p> <p>まとめ</p> <p>(5分)</p>	<p>③【クロストーク】</p> <p>数人の委員長が各委員で決定した活動を発表する。</p> <p>最後にメインの課題について各自で考える。</p>		

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

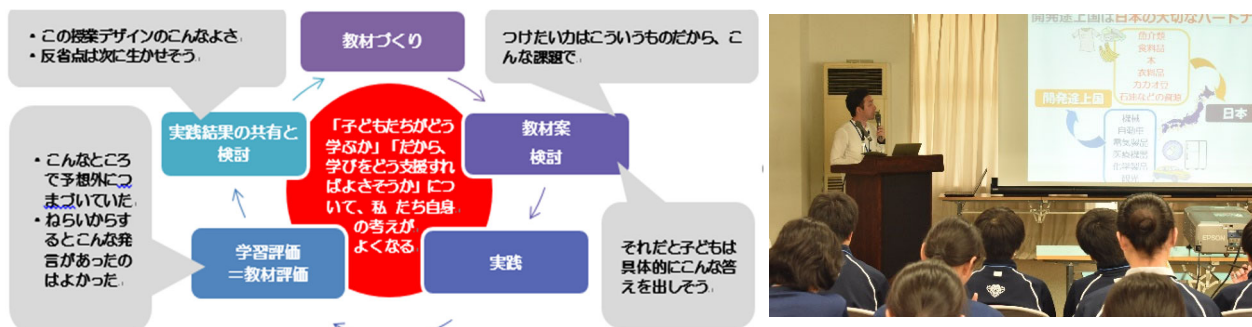
- ・パラグアイのインタビュー結果や新聞記事を読み取り、日本の現状と比較する中で、SDG s 達成への課題を立てることができる。【知識及び技能】
- ・先進国日本は豊かで幸せだが、中進国になったばかりのパラグアイには課題が多いと考えていた生徒が、「社会課題解決中 MAP」の資料を読み取る中で、自省・熟慮し、批判的思考を持つことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・学び得たことから、課題を自分に引き寄せて、自分たちの委員会のできることを考え実行することができる。【学びに向かう力、人間性等】

9. 学習方法及び外部との連携

【学習方法】知識構成型ジグソー法（表 1：評価方法）

表 1

写真 1



【外部との連携】（写真 1：JICA 推進員 竹内氏講演）

[JICA 推進員 竹内岳氏] イングリッシュキャンプ内で中学 1・2 年生対象に、ご自身の体験を基に開発教育、SDG s について講話をいただいた。

[信州大学教育学部 本常遥己さん] 長野青年会議所例会「Nagano カンファレンス」若者と政治家を結ぶ公開討論会の県代表 3 名の中に本校の生徒が選ばれたのがご縁。思春期を迎えアイデンティティに悩む生徒に近い世代から「価値観」について講話をいただいた。（生徒会で選出）

[Joshua Pacheco さん（アメリカ出身：母が日本人、父がアメリカ人。）] 本校の生徒の従弟である。最近来日され、様々な困難を乗り越えて現在に至る過程について、講話をいただいた。（保護者の推薦。生徒会で選出）

【生徒の変容】ワークシートより：

- ・「違いは違いで間違いではない」心が震えた。・付度しすぎて話ができない僕。「言葉の壁は壁じゃない」が心に突き刺さった。・「自分」について、まず自分が一番の理解者でありたいと思う。・人を受け入れ認め合うことが大切であり、差別・偏見は、世界が見直すべき課題であると思った。「誰一人取り残さない社会」を目指すために、認め合い、違いを受け入れることが大事だと改めて感じた。等

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 <ユネスコスクール加盟 3 年目の取組>

- ・「総合的な学習の時間」「生徒会活動」「部活動」を主軸に。(1)異文化理解プロジェクト (2)環境教育・ボランティア教育プロジェクト (3)地球規模の諸問題解決方策プロジェクトを柱に。
- ・その際に「21 世紀型能力」を育むため、アクティブ・ラーニングを通して、知識・技能の習得、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力の育成、そして主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する姿勢を身に付けさせている。
- ・平成 28 年度から、東京大学 CoREF と連携し、アクティブ・ラーニングの手法の 1 つである「ジグソー法」の研究実践を進めており、本年度も引き続き研究を重ねている。
- ・中学 3 年時カナダホームステイ研修、高校 2 年時イギリス修学旅行にて SDG s フィールドワークを行う。

【自己評価】

11. 苦勞した点	<p>生徒が自ら問いを立てることは、ただ関心事に自由に取組みせればいい、ということではない。興味を問いへと転換する上での専門知識の学び等を組み込んだプロセスを、入念に設計することが大切であると感じる。今回の授業では、スローラーナーにも取組易いように、ワークシートの問いに答えていけば自ずとエキスパートになるようにしたことが苦勞した点である。</p> <p>そして更なる探究に導くよう、地域と連携するプロセスも大変苦勞したが、生徒会活動が、地域に必要とされている実感がもたらす生徒の自己肯定感は予想以上であった。生徒が主体性を身に付け、探究活動において「問い」を立てることが出来るようになるには、それを意図した仕掛けが要であり、またそのプロセスが大変重要であると分かった。</p>
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせて、全員がエキスパートになれる方法を検討する。 ・本授業に於いては、事前にメイン課題を生徒会顧問団で解いてみて、検証。授業の時には本校教員全員で見取り、検証。大変意義ある研究になった。一方で、師走の時期の研究会は避けたほうが良いとのご指摘を頂いた。要検討。
13. 成果が出た点	<p>集団浅慮を危惧していたが、学年が違うが故の良い効果が出たと思う。3年生は先輩としての意地、2年生は次期生徒会を継ぐものとしての気迫、1年生は先輩に頼りながらも、大らかに受け入れられていることでの自己有用感を感じており、集団の相乗効果が良い方向に出ていた。</p> <p>生徒会執行部が「みんなのSDGs宣言」を取り入れ、異学年で形成されている委員会毎、地域の持続不可能を探し出した上で行動化を図り、PDCAサイクルで持続可能な活動とし、全県に広報した。2月には学校に地域の方々や保護者をお呼びし、ユネスコ連絡協議会会長より総括頂き、其々高評価を得た。「異なる立場や考え方の良さを見つけるようになった。」「自分は地域や社会から必要とされていると感じられるようになった。」「失敗しても、仲間と共にもう一度挑戦できることが嬉しい。最後までやり遂げたいと思う気持ちが強くなった。」という気付きがあった。</p>
14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>・どちらの国が良くて、または悪いというわけではないので、両国の大事な部分を混ぜ合わせるのはいかがでしょうか。(中1)・地球の反対側同志なのに抱えている問題が同じことに驚いた。世界全体で考えないと!と思った。(中3)・日本を大切にしてくださる人々がいるということを知ると、その人々と対等な関係を築きたいと心から思う。でもどうやって?(中2)・パラグアイに行ってみたいと思った。現地へ行って見えるものがあると思った。(中2)・パラグアイの人は親日的なのに、私たちは正直あまり知らない国で、私たちも何かしなくちゃと思う。この長野でできること、パラグアイの人とスカイプとかで交流できないか。(中3)</p>
15. 授業者による自由記述	<p>「あなたはどんな時に幸せを感じますか?」「家族と一緒にいるときはその家族が、友達と一緒にいるときはその友達がそれぞれ幸せであって初めて、自分も幸せになる。」パラグアイで広く信仰されている宗教も影響しているのか、「幸福」を感じる時の対象範囲の、日本のそれとの違いを実感することができた。以前、本校の中学1年生から高校3年生に同じ調査をしたことがある。結果は、成長と共に多様な幸せを感じられる素養を持ちながらも、不安を前にすると安定志向となり、「あきらめ」てしまっている、というものであった。幸福の心的因子「ありがとう!」(つながりと感謝)「やってみよう!」(自己実現と成長)「わたしらしく!」(独立とマイペース)「なんとかなる!」(前向きと楽観)という思いを、自分に与えてくれたJICA教師海外派遣研修の意義深さを改めて感じる。自分の強みは、「つなぐ」こと。本企画に関わっている全ての方々に感謝し、自分の強みを生かして私らしく、失敗を恐れず、パラグアイと日本をつなぐことに尽力するつもりである。この心に灯った火が、あまり激しくあつという間に消えてしまわないよう、皆様の心の火を継ぎ足しながら、持続可能な限り燃え続けたいと思っている。</p>

参考資料：

- ・私たちが目指す世界子どものための「持続可能な開発目標」～2030年までの17のグローバル目標～ (DEAR)
- ・先生・ファシリテーターのための『持続可能な開発目標・SDGs-アクティビティ集』 (DEAR)
- ・未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK (NPO 法人 ETIC.)
- ・未来を変える目標SDGsアイデアブック (Think the Earth)
- ・社会課題解決中マップ (<https://2020.etic.or.jp/>)
- ・JICA 独立行政法人国際協力機構 (<https://www.jica.go.jp/>)
- ・東京大学 CoREF 知識構成型ジグソー法 (<https://coref.u-tokyo.ac.jp/>)
- ・千葉日報 (令和元年8月27日(火) (令和元年8月31日(土))